

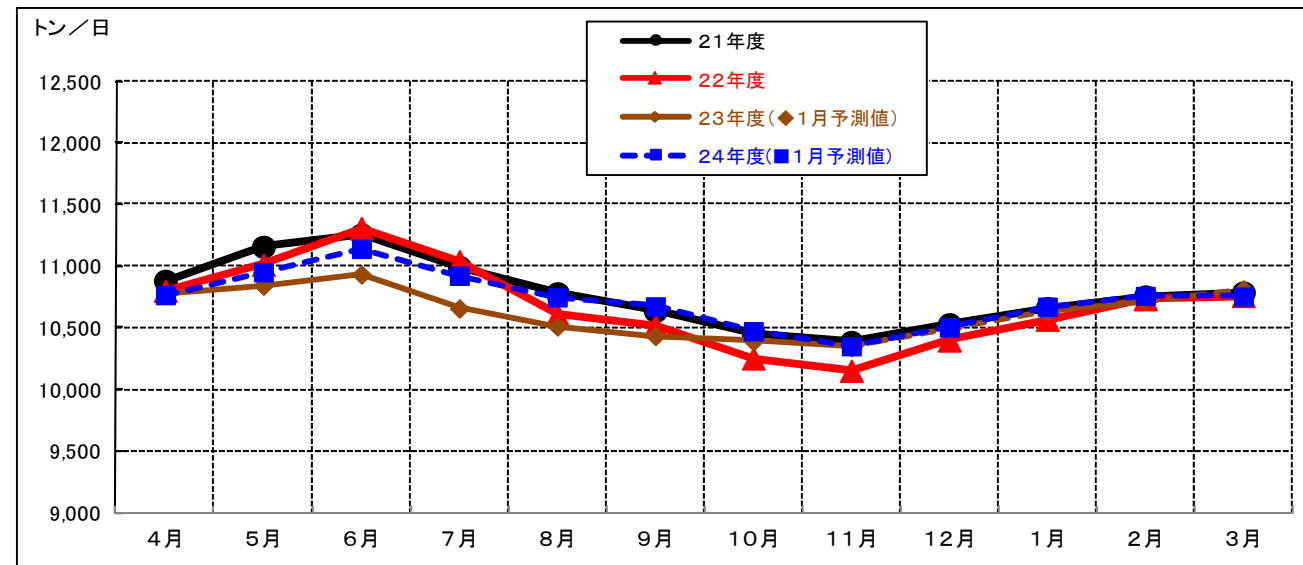
平成24年度の  
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと今後の課題について

平成24年1月23日

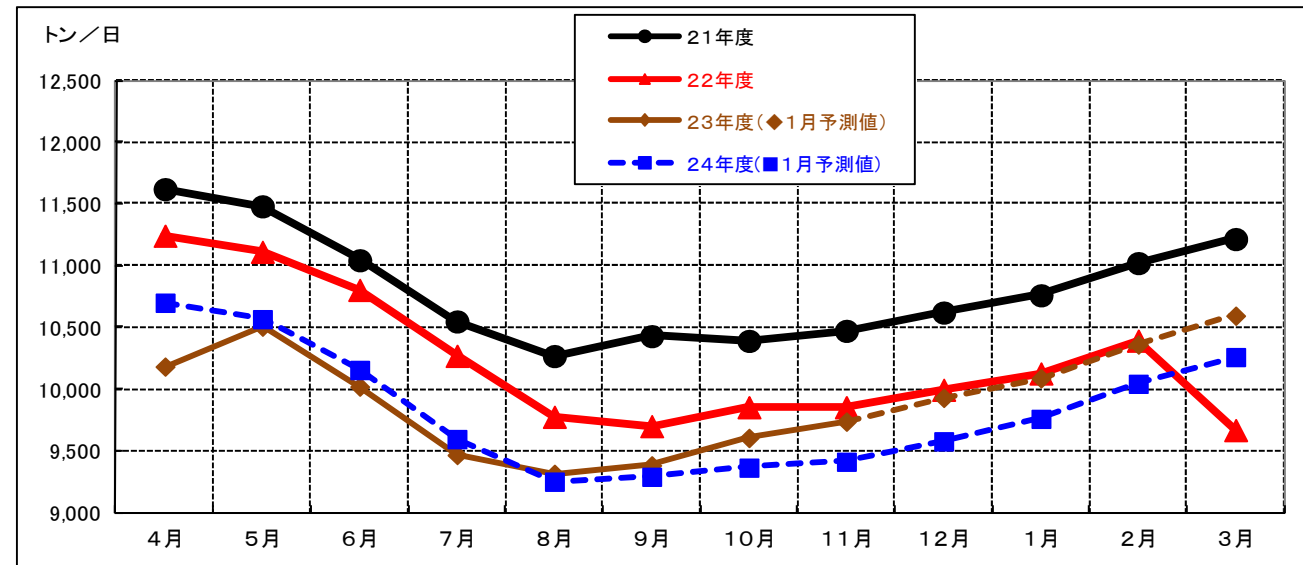
理事会・需給取引専門部会・需給委員会  
社団法人 日本酪農乳業協会

# 1. 地域別の生乳生産量の動向

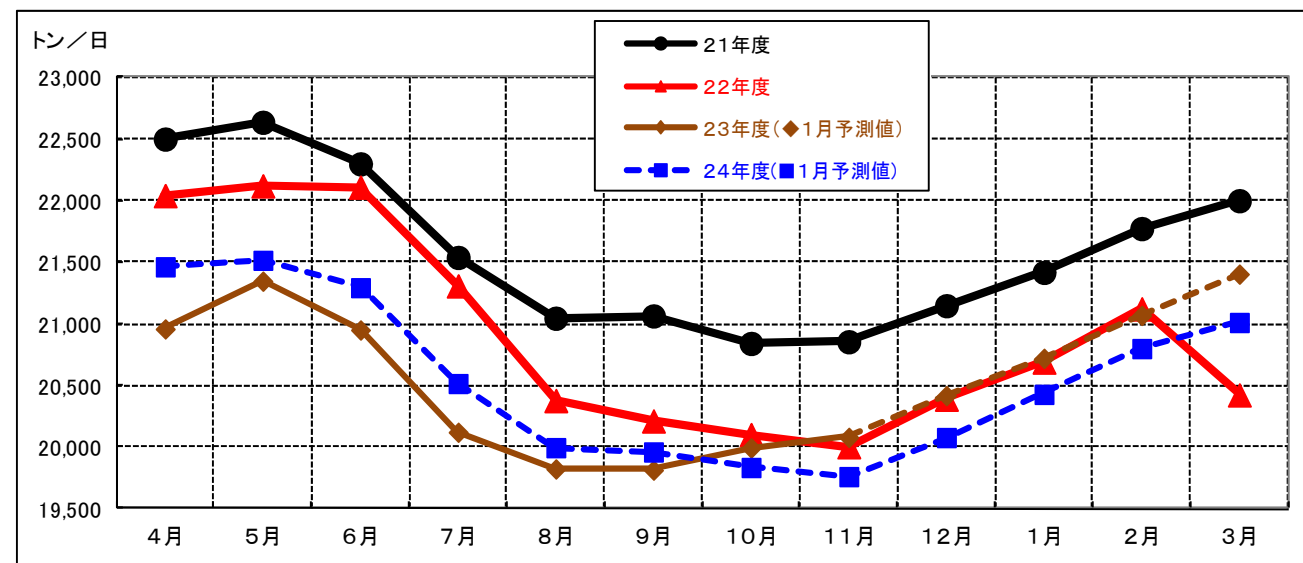
グラフ1-1：北海道の生産量(日均量)



グラフ1-2：都府県の生産量(日均量)



グラフ1-3：全国の生産量(日均量)



## 【生乳生産量予測の前提】

- ・平成 23 年度の生乳生産量は、震災等の影響で廃棄・出荷停止が発生しているため、一旦その影響を排除した上で、予測モデルを用いて指定団体ブロック別の生乳生産量予測値を算出している。更に、それを基に震災等の影響・直近の動向を考慮し、修正を加えている。
- ・平成 24 年度の気温は、平年並で設定している。

表1-1：平成23年度 地域別生乳生産量の見通し

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	629	95.1%	323	99.8%	305	90.6%
5月	662	96.5%	336	98.5%	326	94.6%
6月	629	94.8%	328	96.7%	301	92.8%
7月	624	94.4%	330	96.5%	293	92.2%
8月	615	97.3%	326	99.1%	289	95.3%
9月	594	98.0%	313	99.2%	281	96.7%
10月	620	99.5%	322	101.4%	298	97.5%
11月	602	100.4%	310	101.9%	292	98.8%
12月	633	100.1%	325	100.9%	308	99.4%
1月	642	100.1%	330	100.7%	313	99.6%
2月	611	103.3%	311	103.4%	300	103.3%
3月	664	104.8%	335	100.5%	328	109.6%
第1四半期	1,919	95.5%	987	98.3%	932	92.6%
第2四半期	1,833	96.5%	969	98.3%	864	94.7%
第3四半期	1,855	100.0%	958	101.4%	898	98.5%
第4四半期	1,917	102.7%	975	101.4%	942	104.1%
上期	3,752	96.0%	1,957	98.3%	1,795	93.6%
下期	3,772	101.4%	1,933	101.4%	1,839	101.3%
年度計	7,524	98.6%	3,890	99.8%	3,635	97.3%
閏年修正						
年度計	-	98.3%	-	99.5%	-	97.1%

表1-2：平成24年度 地域別生乳生産量の見通し

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	644	102.4%	323	99.9%	321	105.1%
5月	667	100.8%	339	101.0%	328	100.6%
6月	639	101.6%	334	101.9%	305	101.3%
7月	636	102.0%	339	102.5%	297	101.4%
8月	620	100.9%	333	102.2%	287	99.3%
9月	599	100.7%	320	102.3%	279	99.0%
10月	615	99.2%	325	100.8%	290	97.5%
11月	593	98.4%	311	100.1%	282	96.7%
12月	622	98.3%	326	100.1%	297	96.4%
1月	633	98.6%	331	100.3%	303	96.7%
2月	582	95.3%	301	97.0%	281	93.6%
3月	651	98.2%	333	99.5%	318	96.8%
第1四半期	1,950	101.6%	997	100.9%	953	102.3%
第2四半期	1,855	101.2%	992	102.3%	863	99.9%
第3四半期	1,830	98.7%	961	100.3%	869	96.9%
第4四半期	1,867	97.4%	965	99.0%	902	95.8%
上期	3,805	101.4%	1,989	101.6%	1,816	101.2%
下期	3,697	98.0%	1,926	99.6%	1,771	96.3%
年度計	7,502	99.7%	3,915	100.6%	3,587	98.7%
閏年修正						
年度計	-	100.0%	-	100.9%	-	99.0%

## 【北海道】

・上期 1,989 千<sup>ト</sup> (前年度実績・見込対比 101.6%、以降同じ)、下期 1,926 千<sup>ト</sup> (99.6%) で、年度合計 3,915 千<sup>ト</sup> (100.6%) と見通される。

## 【都府県】

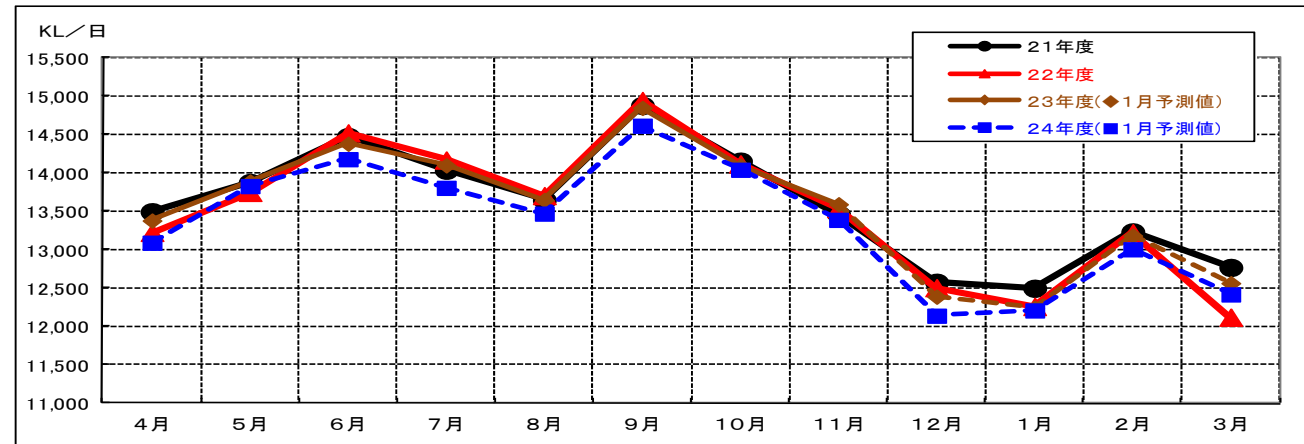
・上期 1,816 千<sup>ト</sup> (101.2%)、下期 1,771 千<sup>ト</sup> (96.3%) で、年度合計 3,587 千<sup>ト</sup> (98.7%) と見通される。

## 【全国】

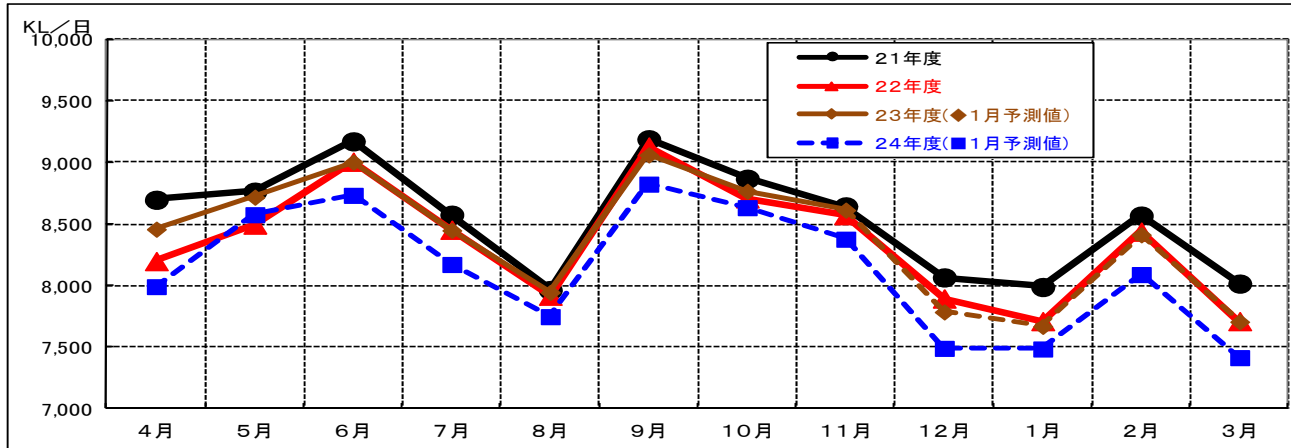
・全国トータルの生乳生産量は、上期 3,805 千<sup>ト</sup> (101.4%)、下期 3,697 千<sup>ト</sup> (98.0%) で、年度合計 7,502 千<sup>ト</sup> (99.7%) と見通される。

## 2. 牛乳等生産量の動向

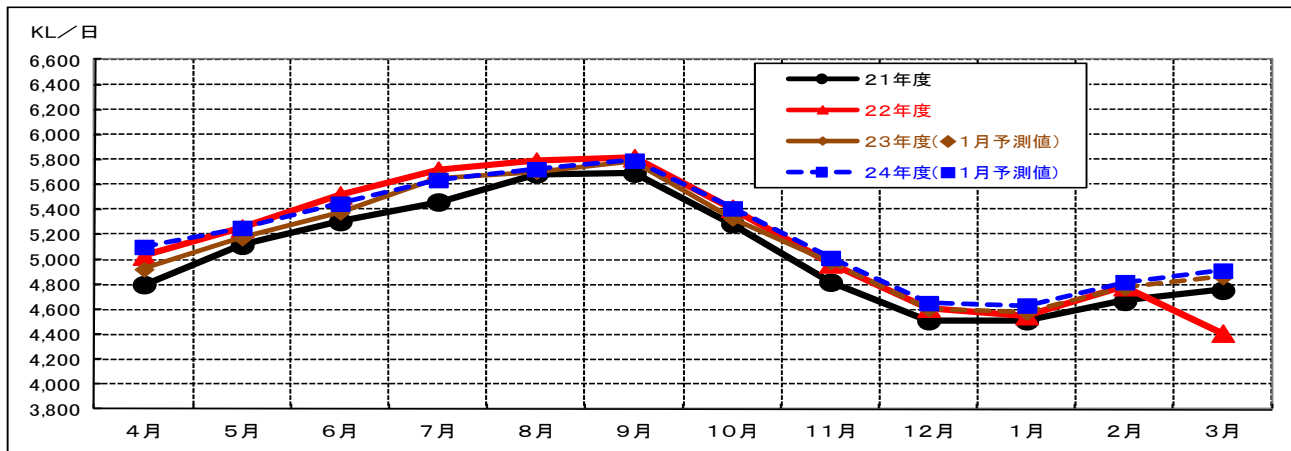
グラフ2-1：牛乳類の生産量(日均量)



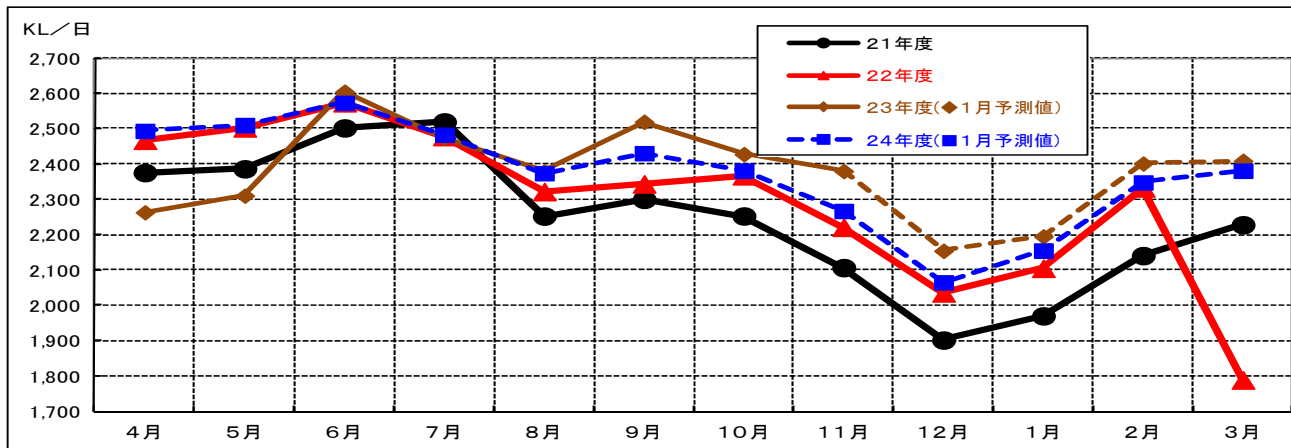
グラフ2-2：牛乳の生産量(日均量)



グラフ2-3：加工乳・成分調整牛乳・乳飲料の生産量(日均量)



グラフ2-4：はっ酵乳の生産量(日均量)



### 【牛乳等生産量予測の前提】

- ・平成23年度の牛乳等生産量は、震災等により平成23年3、4月に牛乳等需要に影響があったとし、平成23年2月までの実績値と5～11月の実績値にて予測モデルで算出している。更に直近の動向を考慮し、修正を加えている。
- ・牛乳は、「学乳」「業務用牛乳」「学乳・業務用以外の牛乳」を別々に予測した値の総量。
- ・「加工乳・成分調整牛乳・乳飲料」は、「加工乳」「成分調整牛乳」「乳飲料」を別々に予測した値の総量。
- ・平成24年度の気温は、平年並で設定している。

表2-1：平成23年度 牛乳等生産量の見通し

	牛乳類		牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	401	101.2%	254	103.2%	148	97.9%	68	91.7%
5月	431	101.0%	270	102.6%	160	98.5%	72	92.3%
6月	431	99.0%	270	100.0%	161	97.5%	78	101.2%
7月	437	99.5%	262	99.9%	175	98.9%	77	99.9%
8月	423	99.6%	246	100.3%	177	98.5%	74	102.5%
9月	445	99.4%	272	99.2%	174	99.5%	76	107.5%
10月	437	99.8%	272	100.7%	165	98.5%	75	102.6%
11月	408	100.4%	258	100.5%	149	100.3%	71	107.2%
12月	384	99.1%	241	98.6%	143	99.8%	67	105.8%
1月	380	99.8%	238	99.4%	142	100.5%	68	104.3%
2月	382	103.3%	244	103.3%	138	103.3%	70	106.6%
3月	390	103.7%	239	99.9%	151	110.2%	75	134.7%
第1四半期	1,264	100.4%	794	101.9%	469	98.0%	218	95.1%
第2四半期	1,306	99.5%	780	99.8%	526	99.0%	226	103.2%
第3四半期	1,229	99.8%	772	100.0%	457	99.5%	213	105.1%
第4四半期	1,152	102.3%	721	100.9%	431	104.6%	212	114.2%
上期	2,569	99.9%	1,574	100.8%	995	98.5%	444	99.1%
下期	2,381	101.0%	1,492	100.4%	888	101.9%	426	109.4%
年度計	4,950	100.4%	3,067	100.6%	1,883	100.1%	869	103.9%
閏年修正	-	-	-	-	-	-	-	-
年度計	-	100.2%	-	100.3%	-	99.8%	-	103.6%

表2-2：平成24年度 牛乳等生産量の見通し

	牛乳類		牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	393	97.8%	240	94.5%	153	103.6%	75	110.2%
5月	429	99.6%	266	98.4%	163	101.6%	78	108.7%
6月	425	98.6%	262	97.0%	163	101.3%	77	98.8%
7月	428	97.9%	253	96.7%	175	99.7%	77	100.3%
8月	418	98.7%	240	97.5%	177	100.4%	74	99.8%
9月	438	98.4%	265	97.4%	174	100.0%	73	96.5%
10月	435	99.6%	268	98.5%	168	101.5%	74	98.1%
11月	402	98.5%	251	97.3%	150	100.7%	68	95.3%
12月	376	98.0%	232	96.2%	144	101.0%	64	95.9%
1月	376	99.0%	232	97.6%	144	101.3%	67	98.2%
2月	361	94.5%	227	92.8%	135	97.5%	66	94.4%
3月	382	98.1%	230	96.2%	152	101.1%	74	98.8%
第1四半期	1,247	98.7%	768	96.7%	479	102.1%	230	105.6%
第2四半期	1,284	98.4%	758	97.2%	526	100.1%	223	98.9%
第3四半期	1,214	98.7%	751	97.4%	462	101.1%	206	96.4%
第4四半期	1,119	97.2%	689	95.5%	431	100.0%	206	97.2%
上期	2,531	98.5%	1,526	96.9%	1,005	101.0%	453	102.2%
下期	2,333	98.0%	1,440	96.5%	893	100.5%	412	96.8%
年度計	4,864	98.3%	2,966	96.7%	1,898	100.8%	865	99.5%
閏年修正	-	-	-	-	-	-	-	-
年度計	-	98.5%	-	97.0%	-	101.1%	-	99.8%

### 【牛乳類：牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

・上期 2,531千kl (98.5%)、下期 2,333千kl (98.0%) で、年度合計 4,864千kl (98.3%) と見通される。

### 【牛乳】

・上期 1,526千kl (96.9%)、下期 1,440千kl (96.5%) で、年度合計 2,966千kl (96.7%) と見通される。

### 【加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

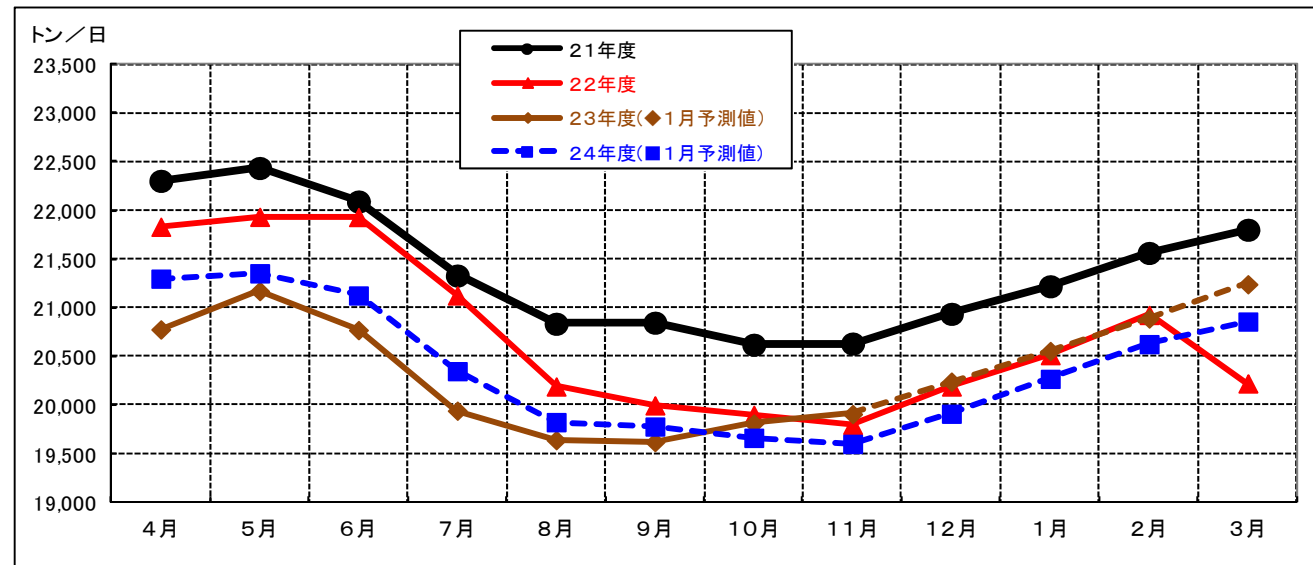
・上期 1,005千kl (101.0%)、下期 893千kl (100.5%) で、年度合計 1,898千kl (100.8%) と見通される。

### 【はっ酵乳】

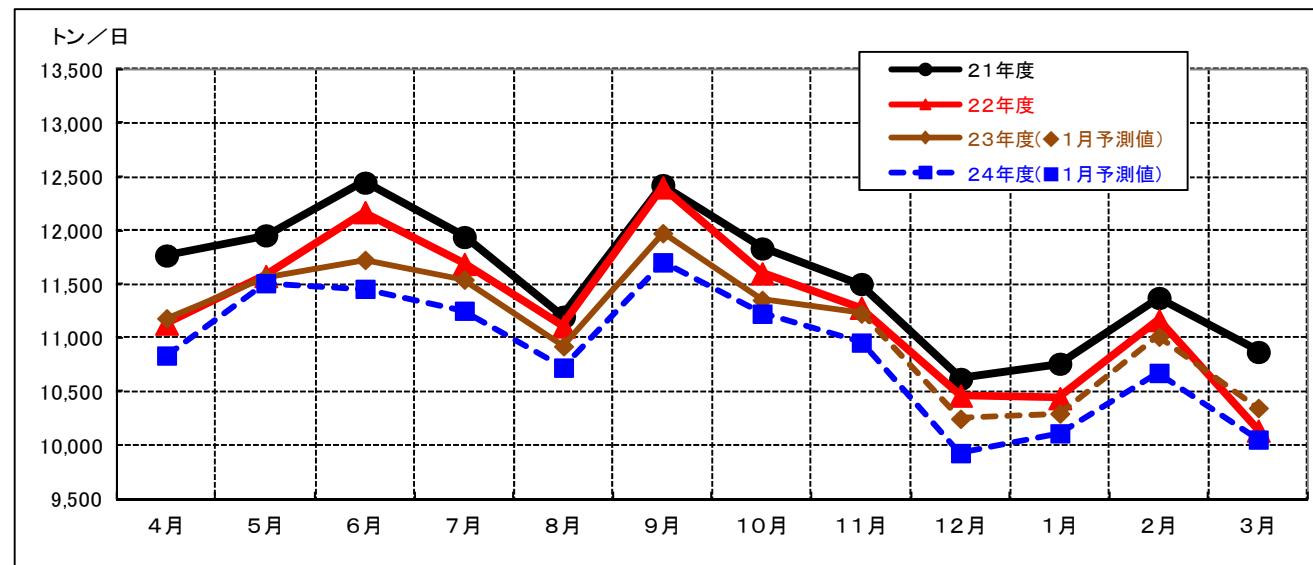
・上期 453千kl (102.2%)、下期 412千kl (96.8%) で、年度合計 865千kl (99.5%) と見通される。

### 3. 用途別処理量の動向

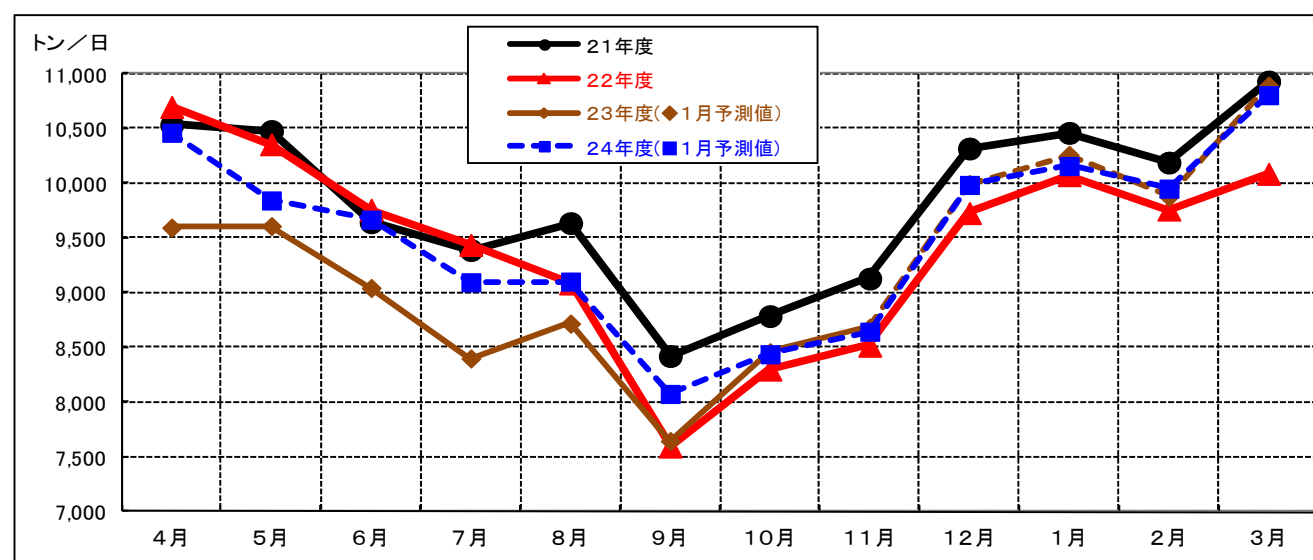
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品向生乳処理量（日均量）



#### 【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の過去6ヶ月の実績値を勘案して算出)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を元に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3-1：平成23年度 生乳生産量及び用途別処理量の見通し

	生乳生産量		自家消費量	生乳供給量		牛乳等向		乳製品向		
	前年比	前年比		前年比	前年比	前年比	前年比			
4月	629	95.1%	5	92.2%	623	95.1%	335	100.4%	288	89.6%
5月	662	96.5%	5	92.3%	656	96.5%	358	99.9%	298	92.8%
6月	629	94.8%	5	91.9%	623	94.8%	352	96.3%	271	92.8%
7月	624	94.4%	5	93.5%	618	94.4%	358	98.7%	260	89.1%
8月	615	97.3%	6	90.6%	609	97.3%	339	98.3%	270	96.1%
9月	594	98.0%	6	93.3%	589	98.1%	359	96.6%	229	100.6%
10月	620	99.5%	6	89.5%	614	99.6%	352	97.9%	262	101.9%
11月	602	100.4%	5	83.9%	597	100.5%	337	99.5%	261	101.9%
12月	633	100.1%	5	91.0%	628	100.2%	318	97.9%	310	102.7%
1月	642	100.1%	5	93.9%	637	100.2%	319	98.6%	318	101.8%
2月	611	103.3%	5	96.9%	606	103.4%	319	102.1%	287	104.8%
3月	664	104.8%	5	92.4%	659	104.9%	321	102.1%	338	107.7%
第1四半期	1,919	95.5%	16	92.1%	1,903	95.5%	1,046	98.8%	857	91.7%
第2四半期	1,833	96.5%	17	92.4%	1,816	96.6%	1,056	97.9%	760	94.8%
第3四半期	1,855	100.0%	16	88.1%	1,839	100.1%	1,006	98.4%	833	102.2%
第4四半期	1,917	102.7%	15	94.4%	1,902	102.8%	959	100.9%	942	104.8%
上期	3,752	96.0%	33	92.3%	3,719	96.0%	2,101	98.3%	1,618	93.1%
下期	3,772	101.4%	31	91.1%	3,741	101.5%	1,966	99.6%	1,775	103.6%
年度計	7,524	98.6%	64	91.7%	7,460	98.7%	4,067	99.0%	3,393	98.3%
閏年修正										
年度計	-	98.3%	-	91.4%	-	98.4%	-	98.7%	-	98.0%

表3-2：平成24年度 生乳生産量及び用途別処理量の見通し

	生乳生産量		自家消費量	生乳供給量		牛乳等向		乳製品向		
	前年比	前年比		前年比	前年比	前年比	前年比			
4月	644	102.4%	5	90.7%	639	102.5%	325	96.9%	314	109.0%
5月	667	100.8%	5	92.5%	662	100.9%	357	99.5%	305	102.4%
6月	639	101.6%	5	93.6%	634	101.7%	344	97.7%	290	106.9%
7月	636	102.0%	5	93.6%	631	102.0%	349	97.5%	282	108.3%
8月	620	100.9%	5	93.6%	615	100.9%	332	98.2%	282	104.4%
9月	599	100.7%	5	93.7%	594	100.8%	351	97.7%	242	105.6%
10月	615	99.2%	5	93.1%	610	99.3%	348	98.9%	262	99.8%
11月	593	98.4%	5	93.1%	588	98.5%	329	97.6%	259	99.6%
12月	622	98.3%	5	93.6%	617	98.4%	308	96.9%	310	99.9%
1月	633	98.6%	5	96.2%	628	98.6%	313	98.2%	315	99.0%
2月	582	95.3%	5	93.1%	577	95.3%	299	93.6%	279	97.3%
3月	651	98.2%	5	93.7%	647	98.2%	312	97.2%	335	99.2%
第1四半期	1,950	101.6%	15	92.3%	1,935	101.7%	1,026	98.1%	909	106.1%
第2四半期	1,855	101.2%	16	93.6%	1,839	101.3%	1,032	97.8%	807	106.1%
第3四半期	1,830	98.7%	15	93.3%	1,815	98.7%	984	97.8%	831	99.8%
第4四半期	1,867	97.4%	14	94.4%	1,853	97.4%	924	96.3%	929	98.5%
上期	3,805	101.4%	31	93.0%	3,774	101.5%	2,058	97.9%	1,716	106.1%
下期	3,697	98.0%	29	93.8%	3,668	98.1%	1,908	97.1%	1,760	99.1%
年度計	7,502	99.7%	60	93.4%	7,442	99.8%	3,966	97.5%	3,476	102.4%
閏年修正										
年度計	-	100.0%	-	93.6%	-	100.0%	-	97.8%	-	102.7%

#### 【生乳供給量】

・上期 3,774千トン(101.5%)、下期 3,668千トン(98.1%) で、年度合計 7,442千トン(99.8%) と見通される。

#### 【牛乳等向生乳処理量】

・上期 2,058千トン(97.9%)、下期 1,908千トン(97.1%) で、年度合計 3,966千トン(97.5%) と見通される。

#### 【乳製品向生乳処理量】

・上期 1,716千トン(106.1%)、下期 1,760千トン(99.1%) で、年度合計 3,476千トン(102.4%) と見通される。

#### 4. 乳製品需給の動向

##### 【乳製品需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、実績値及び乳製品と代替関係にある生クリーム等向の処理見込数量等を基に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

##### 【脱脂粉乳の需給】

- ・脱脂粉乳の生産量は、年度合計で141.2千ト(102.3%)と見通される。
- ・脱脂粉乳の供給量は、現時点において、輸入売渡数量(カレントアクセス)を『0』と仮置きすれば、年度合計で141.2千トと見通される。
- ・脱脂粉乳の消費量は、年度合計で145.5千ト(98.2%)と見通される。
- ・脱脂粉乳の年度末の民間期末在庫量は、44.2千ト(91.1%・3.6ヶ月分)と見通される。

表4-1：平成24年度 脱脂粉乳需給の見通し

	生産量		輸入 売渡し	供給量	消費量		在庫量		
	前年比	前年比			民間在庫量		月数	前年比	前年比
					前年比	前年比			
19年度	171.4	96.8%		171.4	197.0	105.0%	42.8	3.3	62.6%
20年度	155.3	90.6%		155.3	155.0	78.7%	43.1	3.0	100.7%
21年度	170.2	109.6%	6.1	176.3	149.7	96.6%	69.7	5.4	161.7%
22年度	148.8	87.4%	1.0	149.8	160.8	107.4%	58.7	4.7	84.2%
23年度	138.0	92.8%		138.0	148.2	92.2%	48.6	3.8	82.7%
24年度	141.2	102.3%		141.2	145.5	98.2%	44.2	3.6	91.1%

##### 【バターの需給】

- ・バターの生産量は、年度合計で64.6千ト(102.5%)と見通される。
- ・バターの供給量は、現時点において、輸入売渡数量(カレントアクセス)を『8.6千ト』と仮置きすれば、年度合計で73.2千トと見通される。
- ・バターの消費量は、年度合計で77.8千ト(99.8%)と見通される。
- ・バターの年度末の民間期末在庫量は、14.8千ト(76.6%・2.3ヶ月分)と見通される。

表4-2：平成24年度 バター需給の見通し

	生産量		輸入 売渡し	供給量	消費量		在庫量		
	前年比	前年比			民間在庫量		月数	前年比	前年比
					前年比	前年比			
19年度	75.1	96.2%	12.2	87.3	91.0	101.6%	19.2	2.6	83.8%
20年度	71.9	95.8%	14.5	86.4	77.5	85.2%	28.1	3.7	146.1%
21年度	82.0	114.0%		82.0	77.5	100.0%	32.6	5.0	116.0%
22年度	70.1	85.5%	1.6	71.8	83.7	108.0%	20.6	3.2	63.3%
23年度	63.1	89.9%	13.6	76.6	77.9	93.1%	19.3	2.8	93.9%
24年度	64.6	102.5%	8.6	73.2	77.8	99.8%	14.8	2.3	76.6%

#### 5. 国産生乳需要の見通し

##### 【国産生乳需要予測の前提】

- ・脱脂粉乳ベース及びバターベースにおける特定乳製品向需要量は、脱脂粉乳・バターの消費量の予測値から輸入売渡し数量を差し引いた数量及び製造係数を用いて算出。
- ・上記の各々の特定乳製品向数量に、その他乳製品向処理量を加算して乳製品向需要量を算出し、更に牛乳等向需要量を加算して、脱脂粉乳ベース及びバターベース2通りの国産生乳需要量を算出している。
- ・なお、《参考》の総需要量は、脱脂粉乳・バターの消費量から輸入売り渡し数量を差し引かず必要量を算出した値。

##### 【国産生乳需要の見通し】

- ・国産生乳需要量は、総生乳需要量から、左記のカレントアクセスの仮置き値に相当する生乳需要量を差し引いて算出すると、脱脂粉乳ベースで7,494千ト(98.8%)、バターベースで7,561千ト(100.9%)と見通される。
- ・生乳供給量の見通しと比較すると、脱脂粉乳ベースで52千ト、バターベースで119千トといずれも需要量が供給量を上回る。

表5-1：平成24年度 脱脂粉乳ベースの国産生乳需要の見通し

	生乳供給量		国産生乳需要量				供給量と 国産需要量 の差	《参考》 供給量と 総需要量 の差		
	前年比	前年比	牛乳等向		乳製品向					
			前年比	前年比	前年比	前年比				
19年度	7,941	99.2%	8,234	101.7%	4,508	97.6%	3,725	107.3%	▲ 292	▲ 292
20年度	7,866	99.0%	7,862	95.5%	4,415	97.9%	3,447	92.5%	4	4
21年度	7,805	99.2%	7,488	95.2%	4,219	95.6%	3,269	94.8%	318	244
22年度	7,560	96.9%	7,693	102.7%	4,110	97.4%	3,584	109.6%	▲ 133	▲ 145
23年度	7,460	98.7%	7,581	98.5%	4,067	99.0%	3,514	98.1%	▲ 121	▲ 121
24年度	7,442	99.8%	7,494	98.8%	3,966	97.5%	3,527	100.4%	▲ 52	▲ 52

表5-2：平成24年度 バターベースの国産生乳需要の見通し

	生乳供給量		国産生乳需要量				供給量と 国産需要量 の差	《参考》 供給量と 総需要量 の差		
	前年比	前年比	牛乳等向		乳製品向					
			前年比	前年比	前年比	前年比				
19年度	7,941	99.2%	8,038	97.8%	4,508	97.6%	3,530	98.0%	▲ 97	▲ 416
20年度	7,866	99.0%	7,638	95.0%	4,415	97.9%	3,223	91.3%	227	▲ 143
21年度	7,805	99.2%	7,694	100.7%	4,219	95.6%	3,476	107.8%	111	111
22年度	7,560	96.9%	7,867	102.2%	4,110	97.4%	3,757	108.1%	▲ 306	▲ 348
23年度	7,460	98.7%	7,493	95.2%	4,067	99.0%	3,426	91.2%	▲ 33	▲ 389
24年度	7,442	99.8%	7,561	100.9%	3,966	97.5%	3,595	104.9%	▲ 119	▲ 344

## 6. 生乳及び牛乳乳製品の需給動向並びに今後の課題と対応について

### 1. 生乳及び牛乳乳製品の需給動向

#### 本見通しの活用上の留意点について

本見通しは、地域別の生乳生産量や品目別の牛乳乳製品生産量・需要量等の過去の実績データ（月次時系列データ）の動向パターンに基づき、気温変数や乳牛頭数変数、価格変数等の外生変数を組み込み特定化した「ARIMA モデル（予測モデル）」により推計した24年度の生産量・需要量等を基本に作成している。

本予測モデルは、全体のトレンドが減少傾向（又は増加傾向）を示している場合は、直近の実績データで増加（減少）に転じて直後の推計では増加（減少）するものの、その後は全体トレンドとしての減少傾向（増加傾向）に回帰する特徴を有している。なお、突発的に生じたイレギュラーな変化については、特定の変数を導入すること等により、その一時的な変化を吸収することのできる予測モデルとなっている。

このため、本予測手法では、過去に見られない構造的な変化を十分に補足するには限界があることから、震災等の大きな影響により過去の傾向とは異なった構造的変化が生じ今後もその傾向での推移が見込まれる動向等については、予測モデルによる推計値を基に需給委員会で協議検討し、一部修正を行っている。

本見通しの活用にあたっては、以上の点を十分に留意する必要がある。

#### （1）生乳供給の動向

24年度の生乳生産は、22年度の猛暑の影響等による23年度後半からの分娩頭数増加、初産牛の増加見込みから、北海道では引き続き前年を上回っての推移、都府県においても、地域により程度の差はあるものの、これまでの減少トレンドがやや緩和する傾向で推移すると予測される。

しかし、24年度後半からは乳牛頭数の減少が見込まれること等から、生乳生産は鈍化傾向となり、その結果、年度合計（全国）ではほぼ前年並と予測される。

なお、24年度の計画生産対策、国の施策等により、生産現場では積極的な増産対策が今後推進されることが推察され、酪農生産者の増産意欲の向上が期待されることから、本予測を超えた生乳生産となることも十分に考えられる。

#### （2）牛乳類需要の動向

23年度の牛乳類需要は、震災等の影響から大きな変化が懸念されたが、結果は、全体として堅調に推移してきている。

しかし、24年度においては、大きな回復要因も特に無いことから、従来の減少基調に回帰していくものと予測される。具体的には、牛乳・乳飲料・はっ酵乳は23年度の推移よりは減少傾向、加工乳・成分調整牛乳は23年度が減少傾向であったことへの反動からやや増加傾向での予測となっており、牛乳類需要量全体では前年を下回って推移すると予測される。

#### （3）乳製品需給の動向

24年度の乳製品向供給量は、前年を上回って推移すると予測される。こうした中、その他乳製品向供給量が前年同程度と見込まれることから、脱脂粉乳・バターの生産量は前年を上回ると予測される。

一方、脱脂粉乳・バターの需要量は、23年度における供給面での制約や価格の上昇などを背景に、調製品への置き換え等による需要喪失が起こっている状況もあることから、国産乳製品への期待は大きいものの、前年を下回って推移すると予測される。なお、依然、脱脂粉乳・バターの生産量は需要量を下回るため、脱脂粉乳・バターの在庫量は減少傾向で推移すると見込まれる。

24年度の乳製品の需給動向については、供給量や価格による影響の他に、海外市場や天候等の変動要因等、不透明な部分も多く、今後の乳製品供給の動向によっては需要量に変化する可能性もあり、その動向については注視が必要である。

### 2. 需給動向を踏まえた今後の課題・対応

#### （1）生乳生産基盤の維持・拡大

生乳生産については、現時点の見通しでは、24年度においても都府県においては減少基調であり、北海道においても従来のような増勢傾向にはない。

これらの状況を踏まえ、昨年12月に中央酪農会議が策定した24年度の計画生産の考え方においては、今後3年間は前年実績以上の目標数量の配分を行う中期的計画生産の方向性が示された。また、政府から示された24年度のチーズ向生乳供給安定対策事業においては、安定的な生乳生産を図るために生産者自らが乳製品を製造する取り組みを支援する仕組みが盛り込まれたところである。

これらの対策等により、酪農生産者が中期的に安心して生乳生産できる環境が整備されることを踏まえ、酪農乳業関係者が一体となって、生乳生産基盤の安定化への共通課題の解決に向けた共同での取り組みを積極的に行うことにより、なお一層の生乳生産の拡大が期待される場所である。

よって、牛乳乳製品の国内における安定供給を業界全体で推進するための生乳生産基盤強化への期待や共同での取り組みの必要性について、酪農乳業関係者に対してしっかりと伝達していく観点から、これまで以上に、需給関連情報の発信・共有化に努める必要がある。

#### （2）牛乳類需要の拡大

23年度の牛乳類の需要量は徐々に前年を上回る見込みであるが、24年度は、再び、従来の減少基調に回帰していくものと予測される。

こうしたことを踏まえ、酪農乳業界が一丸となって、牛乳類の需給安定対応や消費者・小売流通業等への需給情報の開示を継続していくとともに、更なる牛乳乳製品の価値向上及び消費者への価値訴求に努め、牛乳類需要の維持・拡大に努めることが重要である。

#### （3）的確な需給調整対応の実施

24年度の需給状況は、23年度と同様に厳しくかつ不透明な状況が継続することが予測される。

こうした中、酪農乳業関係者は、日々の需給動向に十分に注視し、業界内の情報の共有化、情報の適切な発信に努めるとともに、牛乳乳製品の需給調整・対応を、政府及び酪農乳業界が一体になって適切に進めることを通じて、消費者・ユーザーに国内牛乳乳製品を安定的に供給し、牛乳乳製品需要の喪失が起こらないようにすることが重要である。

以上